

# 漁海況情報

第479号 (平成24年5月15日)

山形県水産試験場

TEL0235(33)3150 FAX0235(33)0379

ホームページ: //www.pref.yamagata.jp/ou/norinsuisan/147010/

・水産試験場「最上丸」と水産課「月峯」は5月8日に沿岸の水温観測を実施しました。

表層は「平年よりやや高め」、50m層は「平年よりやや低め」、100m～150m層は「平年並み」、200m～300m層は「平年よりやや高め」となりました。

・独立行政法人 水産総合研究センターは、平成24年4月27日に「平成24年度 第1回日本海スルメイカ長期漁況予報」を右記のとおり発表しました。

沿岸25海里定点各層別の平均水温

単位:°C

	表層	50m層	100m層	150m層	200m層	300m層
本年	13.4	9.6	9.3	8.9	8.0	2.7
前年差	+1.1	-0.5	±0.0	-0.1	+0.3	+0.4
平年差	+0.7	-0.5	-0.2	+0.4	+1.5	+0.7
評価	やや高い	やや低い	平年並み	平年並み	やや高い	やや高い
(前月評価)	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	やや高い	かなり高い

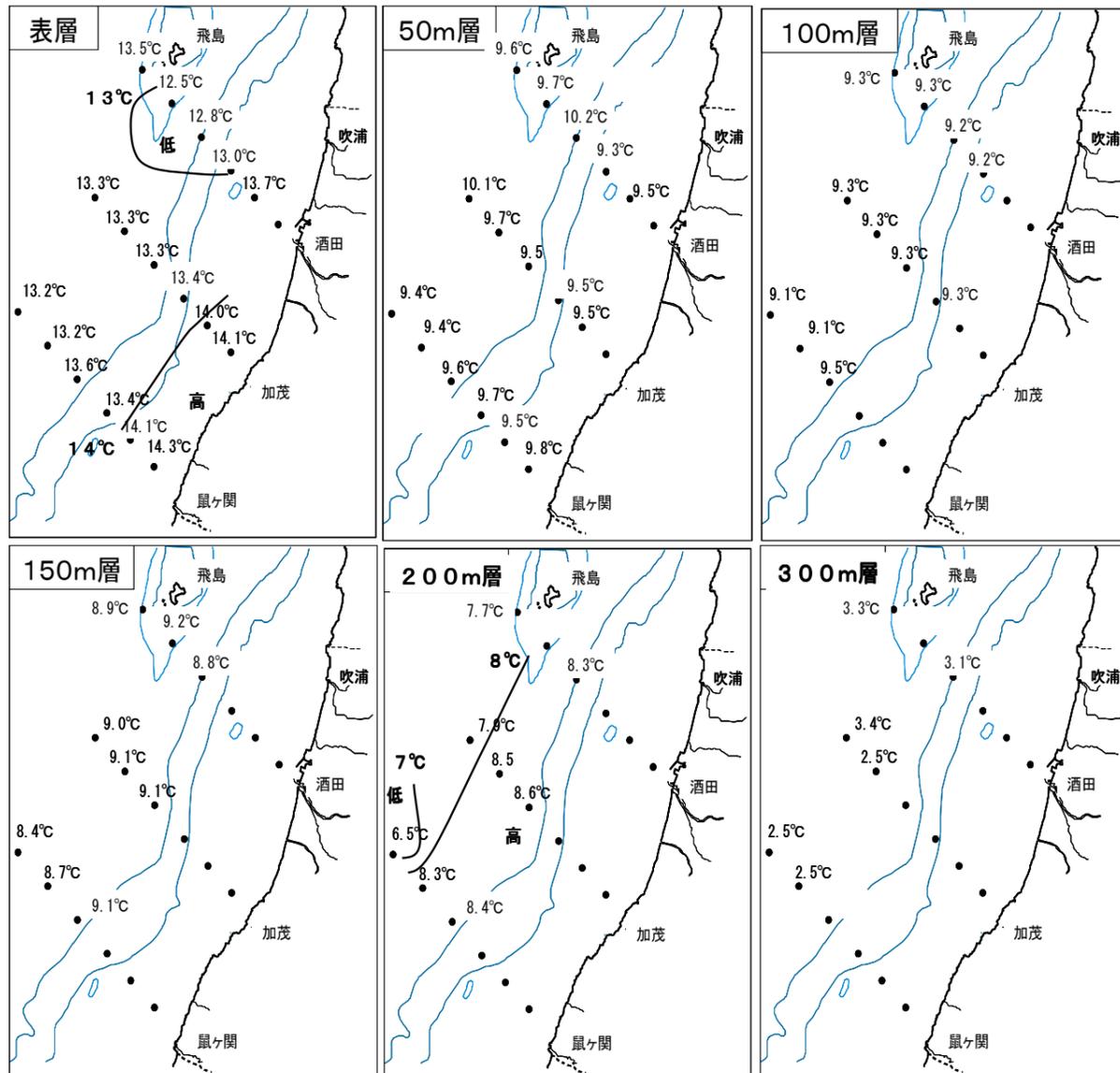
評価の表現: "平年並み"は約2年に1回、"やや"は約4年に1回、"かなり"は約10年に1回、"はなはだ"は約20年以上に1回の出現確率を表しています。

地先平均水温(4月)

単位:°C

場所	水温	前年差	平年差	評価
水産試験場(鶴岡市加茂港内)	10.4	+0.4	-0.5	やや低い
栽培漁業センター(鶴岡市三瀬地先)	10.0	+1.5	-0.7	やや低い

・地先水温: 水産試験場、栽培漁業センターとも「平年よりやや低め」の水温になっています。



## 1 平成24年度第1回日本海スルメイカ長期漁況予報(水産総合研究センター)

今期の見通し(平成24年5月～7月)

対象魚種: スルメイカ

対象海域: 日本海

対象漁業: 主にいか釣り漁業

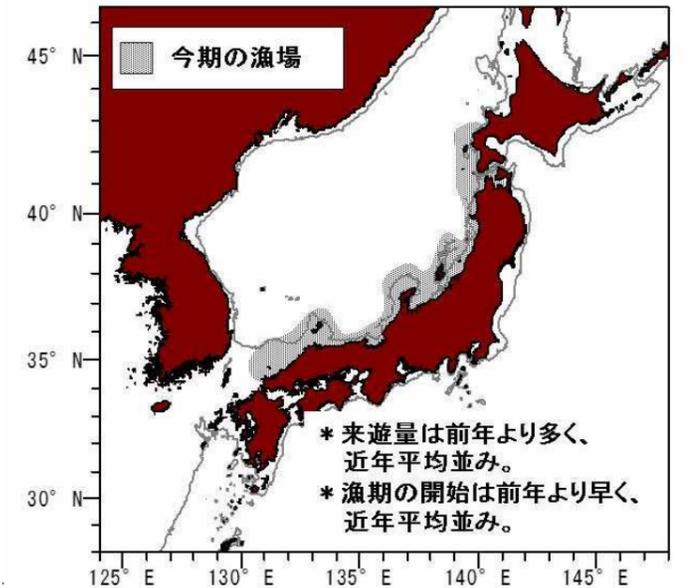
対象魚群: 主に秋季発生系群

(1) 来遊量: 前年を上回り、近年平均並み。

(2) 漁期・漁場: 漁期の開始は前年より早く、近年平均並み。  
漁場は石川県以北が中心。

(3) 魚体の大きさ: 前年より大きく近年平均並み。

\*: 「近年」は最近5年間(平成19年～平成23年)



## 2 日本海スルメイカ漁況

漁業情報サービスセンターによると、5月11日現在のスルメイカ主漁場は能登半島西側で先端は能登半島北側まで北上しています。

今年の山形県沖の初漁日は、遅めだった昨年(5月25日)より早まりそうです。

水揚げ状況

・5月11日 金沢港 釣り 延102隻 3,583箱(30入、バラ主体)

・4月25日～5月8日 両津港 釣り 延2隻 110kg、定置網 54統 24.0トン

# 4月の漁況

・4月は、延べ操業隻数は2,393隻で前年比79%、総漁獲量は168トンで前年比61%となりました。底びき網漁業の操業隻数、漁獲量ともに大きく減少したためです。  
 ・底びき網漁業の漁獲量は65トンで前年比41%でした。これは、4月になって大量発生した泥により漁場の一部で操業が困難になり採算ベースに達しないために、漁業者団体が合意のもと各地区交代で休漁を実施したためです。魚種別では、ウマヅラが前年を上回りましたが、それ以外の多くの魚種で前年を下回りました。  
 ・定置網漁業の漁獲量は11トンで前年比49%でした。スズキ、ブリ類、サワラは前年を上回りましたが、コノシロ、フグ類、この時期主体のサクラマス、アジ類は前年を下回りました。  
 ・採介藻漁業の漁獲量は11トンで前年比95%でした。アワビは前年を上回りましたが、サザエ、ナマコ、アオサは前年を下回りました。  
 ・その他、さし網漁業のマガレイ、一本釣漁業のタイ類(大瀬漁場主体)とブリ類が前年を上回りましたが、さし網漁業のウスマバル(飛島主体)、はえなわ漁業のタコ類、かご漁業のタコ類は前年を下回りました。

\* 前年比は平成19～23年までの平均値と比較した値です。

## 全漁業支所別漁獲量

単位: 隻、kg

支所	吹浦	飛島	酒田	加茂	由良	豊浦	温海	念珠関	計	前年比	前年比
延べ操業隻数	114	151	276	231	358	356	257	650	2,393	105%	79%
漁獲量	7,416	4,790	22,798	9,565	27,245	211,288	14,537	60,078	167,718	71%	61%
前年比	58%	72%	54%	97%	57%	924%	165%	71%	71%		
前年比	56%	32%	48%	94%	53%	611%	139%	65%	61%		

## 底びき網漁業

単位: 隻、kg

支所	吹浦	酒田	加茂	由良	豊浦	念珠関	計	前年比	前年比
延べ操業隻数	18	42	3	47	35	128	273	74%	61%
タイ類	14	2,941	8	79	454	963	4,459	84%	52%
ヒラメ	160	139	3	210	157	418	1,087	32%	30%
カレイ類	908	1,551	291	1,898	1,059	3,478	9,185	70%	58%
ハタハタ	230	389		1,586	444	6,226	8,875	17%	19%
アンコウ	643	467		653	449	2,150	4,362	31%	35%
ウマヅラ		1,182			3,836	2,363	7,381	226%	144%
タコ類	85	86		183	192	563	1,109	84%	37%
アカエビ		522		28		2,419	2,969	30%	18%
マダラ	156	91		465	163	1,145	2,020	63%	60%
その他	1,441	2,245	119	4,294	2,075	13,857	24,031		
計	3,637	9,613	421	9,396	8,829	33,582	65,478	43%	41%
前年比	42%	34%	24%	29%	71%	49%	43%		
前年比	42%	32%	29%	31%	50%	46%	41%		

## その他の漁業

単位: 隻、kg

漁業種類	さし網漁業		はえなわ漁業		一本釣漁業		かご漁業
延べ操業隻数	632		448		374		40
対象魚種	マガレイ	ウスマバル	タイ類	タコ類	タイ類	ブリ類	タコ類
漁獲量(kg)	8,925	1,309	19,610	1,675	6,700	7,132	680
前年比	135%	75%	138%	37%	1316%	11144%	55%
前年比	192%	27%	109%	35%	688%	2277%	53%

## 定置網漁業

単位: 隻、kg

支所	吹浦	加茂	由良	豊浦	念珠関	計	前年比	前年比
延べ操業隻数	9		37	14	12	72	88%	83%
コノシロ			838		4	842	36%	19%
スズキ	57		1,584	526	73	2,240	182%	143%
フグ類	13		543	304	54	914	28%	55%
ブリ類	19		547	357	492	1,415	448%	521%
サクラマス	160		662	288	164	1,274	36%	51%
アジ類			448	807		1,255	944%	14%
サワラ			262	287	58	607	273%	111%
その他	10		2,387	1,844	118	4,359		
計	259		6,561	3,319	905	11,044	79%	49%
前年比	—	0%	121%	83%	25%	79%		
前年比	—	0%	62%	38%	49%	49%		

## 採介藻漁業

単位: 隻、kg

支所	吹浦	加茂	由良	豊浦	温海	念珠関	その他	計	前年比	前年比
延べ操業隻数	22	80	123	69	73	101	38	506	116%	102%
アワビ	168	676	602	368	575	271	1	2,661	276%	188%
サザエ			19	48	32	216		314	36%	20%
ナマコ	236	2,000	728	464	142	755	527	4,852	89%	74%
アオサ		16	779	12	49	157	5	1,018	77%	93%
その他	30	27	1,788	101	271	172	740	3,129		
計	434	2,703	3,137	981	1,020	1,414	1,267	10,956	124%	95%
前年比	46%	74%	236%	122%	106%	128%	3168%	124%		
前年比	50%	85%	124%	107%	66%	67%	367%	95%		

## 最上丸による漁場底質調査結果

水産試験場では、4月25日と5月1日に最上丸により沿岸海洋観測線(吹浦、酒田、加茂、鼠ヶ関線)の各距岸15マイルの定点までを基準とし、補完点を含め延べ18地点の採泥調査を行いました。

### 結果の概要

1) 流動性がある茶褐色の浮泥層の分布は、水深200m以浅では県北部と県南部で厚く堆積した地点が多く、県中部では顕著な堆積は見られませんでした。水深300m以深では鼠ヶ関沖15マイル地点で最も厚く浮泥の堆積が見られ、有機物の腐敗が原因と思われる黒化した部分が見られ、硫化水素臭も確認されました。酒田沖15マイル地点では、浮泥層は少ないものの、非常に軟質な泥の層が厚く堆積していました。

2) 今回の海底に堆積した浮泥は、平成18年に観察された植物プランクトンの濃密発生によるものと異なり、県北域の浮泥の堆積が顕著な地点が、最上川由来の河川水による濁りの見られる海域の海底であることから、大雪の影響による河川水の増水に伴う懸濁粒子の沈降が主な原因と推定されました。また、県南域の調査時には、河川の影響による顕著な濁りは見られなかったものの、堆積物の性状が良く似ていることから、北部と同様に河川由来のものと推定されました。

3) 浮泥層と軟泥層の厚い場所では、底棲生物や塵芥等と一緒に入網することにより、底びき網操業に大きな支障を来しています。

最上丸の調査予定(5月中旬～6月上旬)

### 底びき網調査、漁獲加入量調査、ベニグリ調査、海洋観測

- ・底びき網調査(ハタハタ、アラ場)を行います。
- ・漁獲加入量調査(アラ場での餌曳網調査)を行います。
- ・マグロ漁獲調査を行います。
- ・海洋観測を行います。

みなさま、調査へのご協力よろしくお願ひします。

